
川上北小学校

東戸塚地区センターの隣にあるのが川上北小学校である。親校である川上小学校の話の中で断片的に触れてきたが、ここではもう少し突っ込んだ話をする。

記述は重複するが親校である川上小学校は明治36年（1898年）に開校した戸塚区では2番目に古い小学校である。その学区は昔でいういわゆる川上地区全域であった。

北は品濃町から南は舞岡町まで。その全面積は約11平方キロメートルでピッタリした物差しはないが三浦半島の突端にある城ヶ島の10倍くらいであろうか。

現在のこの地域の人口は約9万人であるがミスターKが川上小学校に在籍していた昭和30年ごろの人口は約6,000人、世帯数が1,000世帯程度であったから、この60年間で人口は何と15倍に膨れ上がった計算になる。

当時（昭和30年）の川上小学校の児童数は旧校歌の中の一節で「川上健児800人…」とあったので児童数は、800名から900名程度だったと推測される。

しかし昭和30年代中ごろから始まった人口の急膨張のため児童数もうなぎ昇りに増加し1校ではとても対応できないパンク状態になってし

まったのである。

そして、昭和44年、川上町に川上北小学校。柏尾に柏尾小学校を開校し地域の小学校は3校体制になったのであった。

それでも増加する児童数に耐えられず昭和47年に平戸小学校。昭和54年には平戸台小学校。昭和56年には南舞岡小学校。さらに昭和58年に品濃小学校。昭和60年に秋葉小学校。昭和62年に舞岡小学校。昭和63年に東品濃小学校と相次いで小学校が開校した。

つまり、この30年くらいの間になんと9校も増加し元祖川上小学校を加え10校体制という稀にみる小学校激増地域となったのである。

ここでミスターKと地域の小学校との関わりを振り返っておく。

ミスターKには3人の子供がいるが、いずれも川上北小学校にお世話になっていた。

そんなことからミスターK。38才ごろPTAの役員にひっぱりこまれ昭和57年会長に推され断ることもできず就任した。

ところが、これが運のつき、ちょうど品濃小学校の開校が取りざたされ始め立場上開校準備に携わることになった。開校準備委員長は先輩会長であった故縄島召治氏が引受けてくれたが、同氏が「お前が副委員長を引き受けてくれないと俺はやらないよ」ということで現役PTA会長としては進退窮まり副委員長に就任した。

とはいえ、この手の仕事は委員長もミスターKも初めてのこと。

当時の校長・副校長・教育委員会等の指導を受けながら委員会を立ち上げ準備に取り掛かった。

軽く考えていたわけではないが蓋を開けると仕事は山ほどあった。詳しい話は省略するが、まずいくつかの部会を設置することから始まり校名部会・学区部会・通学路部会・式典部会の4部会を設置することになった。ところがこの各部会の人的組織をつくるのがまず大仕事であった。どこの学校の開校準備委員会でもこの部会長は地元の有力者をお願いするのが通例であった。何故かという発言力もさることながら資金協力をお願いできる人が必要だったからである。

しかし、どこの世界でも同じであるがお願いに歩いて一つ返事で引き受けてくれる人はまず皆無である。したがって2回～3回～4回と夜がけ朝がけと足げく通いようやくにしてお引き受け頂くというのであるから大変疲れる仕事であった。

この部会長選びがうまくできれば、後はその部会長の顔と押しで、委

員会の構成は比較的に楽である。

こうして組織ができ上がるといよいよ実務である。これもかなり難儀なことで毎月部会に顔をだしたり全体会を企画したりで都合何回の会議を開いたか覚えていないが数十回に及んだことは間違いない。その他、委員長・副委員長はいやな金集めにも奔走しなければならないので全くもって身も心もクタクタになったものである。

そして昭和58年品濃小学校はめでたく開校した。

これでやっと学校関係の仕事も終わったとほっとしたのである。ところが、これが終わりではなかった。

昭和62年この地域にもう一つ小学校をつくるという話が持ち上がり、その開校準備委員長は、あなたしかいないと地元人から持ち上げられ、逃げたいと必死に抵抗したのであるが、ついに逃げ切れず再び学校関係の仕事に引き込まれてしまったのである。世の中、足の速い器用な人も大勢いるが元来足の遅いミスターKあわれ捕まってしまったという次第であった。

それが昭和63年に開校した東品濃小学校である。

短い人生の中で、二つの小学校の開校準備に携わった人は、そう多くはいないであろう。いま思えば、あの多忙といろいろな苦しみも走馬灯のごとく記憶の彼方へと消え去ろうとしている。

戸塚区の学校史

いままで柏尾川沿いのいくつかの学校情報を折々に触れてきたが、ここでは戸塚区の学校史を簡単にまとめておきたい。

まずは小学校から。戸塚区の小学校で一番古いのが明治6年（1871年）開校の戸塚小学校。次が明治36年（1898年）開校の川上小学校。その次が大正10年（1917年）開校の大正小学校である。

そして児童数の増加に伴い戸塚小学校の子校として開校したのが昭和26年（1951年）開校の東戸塚小学校である。

上記古い順3校の最後が大正10年の大正小学校であるから東戸塚小学校が開校するまでの実に35年間くらいは戸塚区の小学校は3校体制であったことになる。

そして昭和30年代後半から小学校の新設ラッシュが始まった。

親校、子校の関係は省略するが、以下順に並べてみると、

昭和39年 汲沢小学校
昭和42年 境木小学校
昭和44年 川上北小学校・柏尾小学校・小雀小学校
昭和45年 矢部小学校
昭和46年 南戸塚小学校
昭和47年 平戸小学校
昭和48年 深谷小学校・深谷台小学校
昭和50年 東汲沢小学校・名瀬小学校・俣野小学校
昭和54年 平戸台小学校
昭和55年 烏が丘小学校
昭和56年 南舞岡小学校
昭和57年 上矢部小学校
昭和58年 品濃小学校
昭和60年 秋葉小学校
昭和61年 東俣野小学校
昭和62年 舞岡小学校
昭和63年 東品濃小学校・倉田小学校
平成13年 下郷小学校

と凄まじい勢いで小学校が開校した。

以上合計すると、なんとなんと28校に及ぶ。大正10年の3校時代から実に9倍に膨れ上がったことになる。

年代順にみても昭和40年代が9校。昭和50年代が8校。昭和60年代が5校で平成に入ってから下郷小学校1校だけである。

ここから戸塚の人口が昭和40年代～50年代にいかに爆発的に増加したかが読み取れる。

次は中学校。ミスターKが戸塚中学校卒業であることはすでに述べた。

戸塚区の中学校は昭和22年に開校した戸塚中学校と大正中学校が草分けで以後昭和37年開校の舞岡中学校まで実に約15年間は中学校は2校体制であった。

その後の中学校の開校は、

昭和43年 境木中学校
昭和46年 豊田中学校
昭和52年 汲沢中学校
昭和55年 名瀬中学校・深谷中学校

昭和60年 秋葉中学校

昭和61年 平戸中学校・南戸塚中学校

と8校が開校し都合11校という体制になっている。

次は高校であるが戦後の新制高校として最初の高校は戸塚高校で昭和23年に開校している。以後昭和51年に開校した舞岡高校まで、なんと約30年間戸塚区の高校は1校体制であった。

昭和58年に上矢部高校。平成15年に桜陽高校と現在公立では4校体制になっている。

但し、桜陽高校は平成15年に豊田高校と汲沢高校が合併によりできたもので、それ以前は5校体制であった。

また私立高校としては公文国際学園高等部が平成5年に小雀町に開校している。

最後は大学であるが昭和59年横浜市立大学が舞岡町に木原生物学研究所として学部を設置したのが戸塚区最初の大学である。

続いて昭和60年に明治学院大学が、平成18年に横浜薬科大学が開校し現在区内の大学は都合3校である。